

医学中央雑誌を使った日本の看護文献 電子化の現状報告とシミュレーション

児玉 関¹⁾、松田 真美²⁾、黒沢 俊典²⁾、佐々波 裕子³⁾

¹⁾杏林大学医学図書館、²⁾NPO 医学中央雑誌刊行会、³⁾杏林大学保健学図書館

1.はじめに

電子ジャーナルにとって、文献書誌データベースとのリンクは、特徴のひとつである。検索結果から該当文献をすぐに見られる便利さは、電子ジャーナルならではのメリットといえよう。学術雑誌の電子化は 1990 年代中頃に始まり、現在では、ほとんどの医学系洋雑誌が電子ジャーナルで提供されている。PubMed では、LinkOut という機能を使ってのべ 5000 以上の雑誌とのリンクを実現し、電子化のメリットを活かしたサービスを実施している。

一方国内に目を向けてみると、雑誌の電子化およびデータベースとのリンクは、大幅に遅れている。したがって利用者は、和雑誌については、電子ジャーナルならではのメリットを享受できないのが実情である。そこで本調査は、看護分野の文献を対象を絞って和雑誌の電子化の現状を報告するとともに、看護系和雑誌が電子化された場合の影響度を明らかにすることを試みた。

2.対象と方法

看護文献は、医学中央雑誌（以下、医中誌）のデータベースから抽出した。条件は、2006 年 5 月 16 日現在で医中誌に収録された文献で、2003～2004 年の間に出版され、且つ、分類が看護のものとした。抽出された看護文献を掲載する雑誌を看護雑誌とみなし、それらの雑誌の電子化状況を調べた。

なお現在の医中誌には Pre 医中誌データというものがあるが、それらのデータにはまだ看護分類のチェックがつけられていない。したがって Pre 医中誌データについては、今回の対象から外した。

3.結果

結果は表 1 の通りである。看護文献は全文献の約 6%、看護雑誌（看護文献を掲載している雑誌）は全体の約 35%であった。

この結果に関する考察は、発表で行う。

表 1. 文献数・雑誌数

発行年	全文献数	看護文献数	看護文献率(%)	全雑誌数	看護雑誌数	看護雑誌率(%)
2003 年	301,159	19,757	6.56	2,378	856	36.00
2004 年	296,871	17,962	6.05	2,345	830	35.39